AMCoR
Asahikawa Medical University Repository http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/

看護学科卒業研究抄録集 (2013.12) 平成25年度:33～34.

東日本大震災による看護学生の災害に対する意識・行動の変容

岩間千草、上出雪実、中村　歩、松崎紗也香

東日本大震災による看護学生の災害に対する意識・行動の変容

岩間千草　上出雪実　中村歩　松﨑紗也香
（指導：望月吉勝）

緒言

東日本大震災（以下、震災）の発生をきっかけに地震など災害への国民の意識が高まった。また、防災・減災への取り組みや投資の大切さを、改めて認識する機会となった。しかし、震災から2年が経過し、当時に比べ災害に関する働きかけが減少傾向にあるため、防災について考える機会が減り、当時ほど災害への危機感は高くない状況にあると考えられる。看護職者はその地域の人々を守るために、災害のリスクやサイクルに応じて活動できる能力と、災害および防災に対する正しい知識と高い意識が必要である。そのため学生のうちから災害や防災に対して高い意識を持つことが望ましいと考える。

本研究では、看護学生の災害に対する意識・行動がどのように変化したのかを明らかにし、その変化について検討する。

方法

1. **研究対象**：北海道内の1医療系大学の看護学科の1～4年生260名を対象とし、240名の回答を得て有効回答185名(74.9%)を分析対象とした。
2. **調査方法**：無記名自記式調査票を用い、集合法により配付・回収した。調査期間は2013年8月27～30日だった。
3. **調査項目**：質問項目は回答者の属性(性別、学年、出身地域、震災発生時にいた場所)、「過去の被災体験」、「防災意識」、「防災行動」、「SOC3スケール[1)]」を用いた。
4. **データ分析方法**：「将来医療班として活動することへの関心の程度」を目的変数として重回帰分析により標準偏回帰係数(β)を算出した。「震災時の居住地域の避難場所の認知の有無」を目的変数としてロジスティック回帰分析によりオッズ比を算出した。統計ソフトはSPSS Ver18Jを用いた。
5. **倫理的配慮**：質問紙調査は、無記名で行い、データの収集・分析、研究成果の公表・活用のどの段階においても、個人が特定されないことなどを説明し、参加協力を求めた。本研究は本学倫理委員会の承認を得て行った(承認番号:1562)。

結果

1. 対象者の属性

対象者の属性と震災時にいた地域等を表1に示す。

2. 防災意識の変化について

「災害発生に対する不安」や「防災に対する関心」、「支援行動への意思・関心」の変化について震災直後はいずれも高まっていたが、時間経過とともに低下したとの回答が約20%あった(図1～3)。なお、「震災以前と比べた震災直後の意識の変化」と、「震災直後と比べた現在の意識の変化」を比較したところ、災害医療参加への関心は、震災を受けて「低くなった」1.1%、「やや低くなった」0.5%、「変わらない」39.5%、「やや高くなった」48.6%、「高くなった」10.3%であった。

3. 行動の変化について

震災後に実際に支援行動を行ったとの回答は76.2%で、内訳は「ボランティア活動」1.1%、「献血」22.2%、「募金」63.8%、「生活必需品の送付」3.2%、「義援金」8.1%であった。

また、避難場所の認知は震災時と現在で変化は見られなかった(表2)。災害のための物品の備えは、震災後新たに備えた人は少なく、全く備えていない人も約30%いた(図4)。持ち出せるようにまとめてはいない人も多い状態であり、防災の備えに関する点検の実施状況をみると、震災以前と震災直後～現在で大きな変化はなかった(表3)。また、「防災の備えに関する評価」に関しては、「不足」62.2%、「どちらかといえば不足」34.1%だった。

4. 意識と行動の関連について

「将来医療班として活動することへの関心の程度」を目的変数とした重回帰分析で、「支援行動への関心（震災直後）」と「災害に対する不安（震災直後）」が有意で大きなβを示した（図5)。また「震災時の居住地域の避難場所の認知の有無」を目的変数としたロジスティック回帰分析で、「自然災害で身の危険を感じた経験」と「災害発生に対する不安（震災直後）」が有意で大きなオッズ比を示した（図6)。

考察

1. 意識の変化について

「災害発生に対する不安」「防災に対する関心」「支援行動への意思・関心」は、震災直後は高まったが時間経過とともに災害への危機感が薄れてきたと考える(図 1～3)。だが、「将来医療班として活動することへの関心」に対して「災害発生に対する不安（震災直後）」と「支援行動への関心（震災直後）」が有意な影響を示しており(図 5)、震災を契機に災害発生のリスク認識が高い人ほど災害医療への必要性を感じ、関心が高いのではないかと考える。

2. 行動の変化について

物品の備えは、震災を受けたことに関する行動の大きな変化はみられなかった(図 4)。北海道の一自治体（美幌町）が住民に対して行ったアンケート調査[2)]でも何も備えていない割合は約 40%であり、本研究と大きな差がなく、類似の結果が得られた。

防災の備えは、日常的に使用されないような物品は備えられにくい傾向がある(図 4)。また防災の備えがある人でも、持ち出せるようにまとめてはいない人が多い状態であり、防災の備えに関する点検の実施状況をみると、震災以前と震災直後～現在で大きな変化はなかった(表 3)。避難場所の認知も防災の備えに関する点検の実施状況と同様に、震災前と現在で変化はみられなかった(表2)。このことから、震災を受けたことによる防災の備えに関する行動にはつながっていないようである。震災という大きな出来事が起こっても実際には災害に備えるための行動をとるには至っていない。その要因として、災害を身近な出来事として捉えていないことなどが関係しているものと考える。

支援行動は、実際に76%の人が行っており、募金と献血の割合が高かった。このことから、防災のための物品の備えと同様に、取り組みやすい事柄の方が行動につながることが考えられる。

3. 意識と行動の関連について

「避難場所の認知」は、震災による行動の変化はみられず、多くの人が避難場所を知らないという実態が明らかになった(表2)。また、「災害発生に対する不安(発生直後)」と「震災前に備えていた物品個数」が影響を示していた(図 6)。このことから、災害発生のリスク認識や災害への関心が高まった人の方が防災行動に結びついていることが考えられる。旭川

で過去 30 年間に発生した震度 1 以上の地震は年間 1.9 回程度と地震が比較的少ないこと[3] や、震災からの時間経過が、危機感の薄れに影響していると考える。

約 96%の人が、自身の備えを不足と感じている一方で、まったく備えていない人は約 30%いる。備えを行っている人でも、持ち出せるように準備している、点検を定期的に行っている学生は少数であることから、備えが十分とは言えない。よって、備えに関しては意識と行動が伴っていないと考える。

以上より、一部の項目に関して災害や防災への意識と行動に関連がみられた。本研究では、震災後に高まった不安、防災への関心、支援行動への意思を現在も維持できている学生がいる一方、防災行動が不足している現状が明らかになった。防災意識・行動との関連から、災害発生のリスク認識が低いほど行動に結びついていない。そのため、防災行動を促すためには、災害意識を高めることが必要である。しかし、災害への意識や危機感は一時的に高まっても時間経過とともに薄れ低下していく。したがって、防災行動へつなげるためには、平常時の災害意識を高め、維持するための取り組みが必要である。

謝辞：本研究にご協力いただいた学生の皆様に心よりお礼申し上げます。

引用文献

1) 戸ヶ里泰典(2008)：第 2 章 SOC はどのように測ることができるのか. 山崎喜比古、戸ヶ里泰典、坂野純子・編(2008): ストレス対処能力 SOC. 有信堂, p.33-34.
2) 美幌町(2012)：防災意識に関する町民アンケート調査結果について. http://www.town.bihoro.hokkaido.jp/docs/2012100400015/
3) 旭川市経済観光部産業振興課(2012)：旭川市の概要. http://www.city.asahikawa.hokkaido.jp/files/sangyousinkou/yuuchi/asahikawa.html

表 1：対象者の属性（n=185）

		人数	%
性別	男性	15	8.1
	女性	170	91.9
学年	１年	44	23.8
	２年	45	24.3
	３年	47	25.4
	４年	49	26.5

		人数	%
出身地域	道北	58	31.4
	道東	44	23.8
	道央	71	38.4
	道南･道外	12	6.5
震災時にいた地域	道北	77	41.6
	道東	33	17.8
	道央	57	30.8
	道南･道外	18	9.7

図1：災害発生に対する不安

図2：防災に対する関心

図3：支援行動への意思･関心

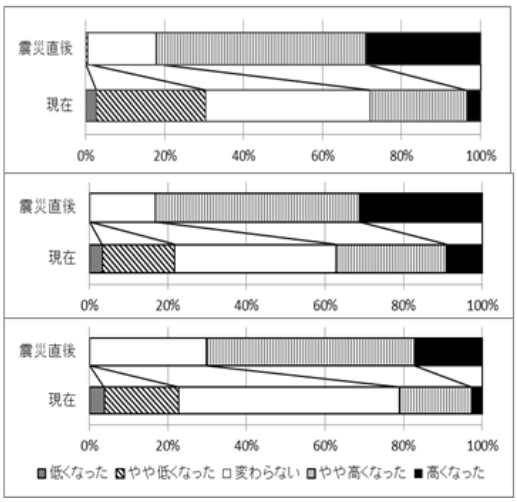

表 2：避難場所の認知

震災時の居住地	
震災前から知っている	27.0%
震災後確認した	8.1%
知らない	64.9%

現在の居住地	
居住地が変わっていない	23.2%
知っている	7.6%
知らない	69.2%

表 3：防災の備えに関する準備

防災の備えを持ち出せるようにまとめているか	
まとめていない	65.2%
震災後まとめた	9.1%
震災前からまとめていた	25.8%

防災の備えの点検実施(震災以前)	
したことがない	72.7%
したことがある	20.2%
定期的にしていた	7.1%

防災の備えの点検実施(震災直後～現在)	
したことがない	65.3%
したことがある	26.7%
定期的にしている	7.9%
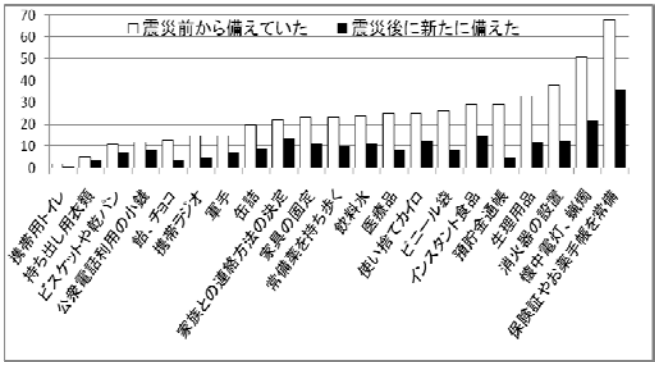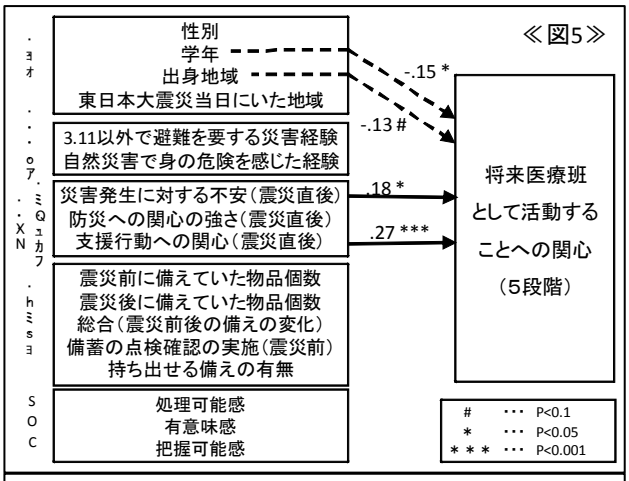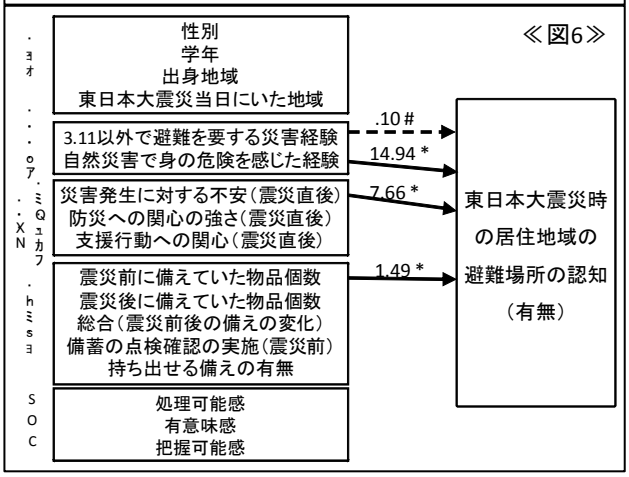
図 4：震災以前・以後の物品別の人数比較